



ヒロセ電機株式会社

2027 年 3 月期第 1 四半期 決算説明会

2026 年 8 月 5 日

イベント概要

[企業名]	ヒロセ電機株式会社		
[企業 ID]	6806		
[イベント言語]	JPN		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2027 年 3 月期第 1 四半期 決算説明会		
[決算期]	2026 年度 第 1 四半期		
[日程]	2026 年 8 月 5 日		
[時間]	10:45 – 11:55 (合計：70 分、登壇：20 分、質疑応答：50 分)		
[開催場所]	インターネット配信		
[登壇者]	3 名		
	代表取締役社長	鎌形 伸	(以下、鎌形)
	広報・IR 室 室長	山田 理絵	(以下、山田)
	広報・IR 室	清水 秀章	(以下、清水)

登壇

山田：それでは定刻となりましたので、ただ今より、ヒロセ電機、2027 年 3 月期第 1 四半期の決算説明会を開催いたします。本日はご参加いただき誠にありがとうございます。

本説明会はオンラインのみでの開催となります。前回に引き続き、同じセクターの企業様の説明会と時間が重複したため、通常より 15 分遅い開始としております。

本日の出席者は、ヒロセグループ代表取締役社長 鎌形、広報・IR 室からは、山田および清水が進行および質疑対応を務めます。取締役 管理本部長 松永は別件対応により欠席となっております。

まず冒頭、今回の説明をさせていただきます。本日の決算説明会資料ですが、ご参加の画面上のリンクから PDF ファイルをダウンロードいただき、お手元でご覧ください。同様に、昨日 8 月 4 日に東証にて開示しております決算短信のリンクがございます。その他の開示資料については、弊社 Web サイトの IR ページに遷移していただき、ご覧いただけるようになっております。ご説明の際にはページ番号を申し上げますので、お手数ですがページ送りは各自でお願いいたします。

それでは資料に基づき、まず私より、2027 年 3 月期第 1 四半期の決算概要をご説明いたします。その後、今年度の業績予想の修正について、社長の鎌形よりご説明いたします。残り時間でご質問お受けすることとし、閉会は 11 時 45 分頃の終了を予定しております。

業績サマリー (2026年度 第1四半期 2026年4月～6月)

全ての市場分野において前年同期比、前四半期比ともに増収を達成し、2026年度は好調なスタートを切った。材料コスト負担の影響は継続しつつも物量増加により収益性は若干良化。一般産機市場向けはFA関連が牽引して過去最高売上を更新し、スマートフォン向けおよびコンシューマ・モバイル向けも一部地域・用途で強弱が見られたものの全体として堅調に推移した。加えて、自動車・モビリティ関連向けも引き続き成長を維持した結果、売上高は前年同期比26.8%増、営業利益は同35.7%増、営業利益率は21.5%となった。受注は710.6億円と前年同期比 +36.6%であった。

(金額：億円)

	2025年度1Q (2025.4-6月)	2025年度4Q (2026.1-3月)	2026年度1Q (2026.4-6月)	前年同期比 (2026.1Q/2025.1Q)	前四半期比 (2026.1Q/2025.4Q)
受注	520.1	632.4	710.6	+36.6%	+12.4%
売上	489.7	547.2	620.8	+26.8%	+13.5%
営業利益	98.3	104.9	133.4	+35.6%	+27.1%
営業利益率	20.1%	19.2%	21.5%	+1.4pt	+2.3pt

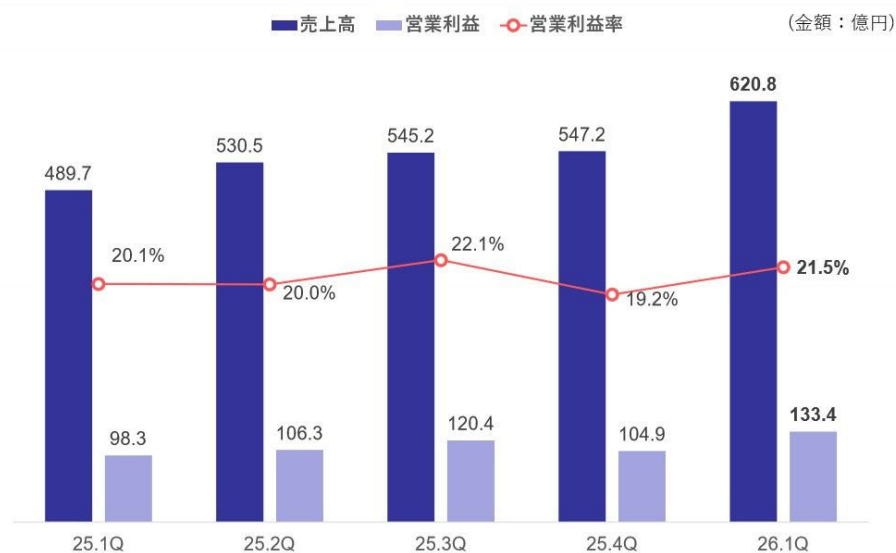
3

資料に移ります。それでは、まず3ページからお願いいたします。業績サマリーです。2027年3月期第1四半期の業績につきましては、全ての市場分野において前年同期比、前四半期比ともに増収を達成いたしました。

売上高は620.8億円と前年同期比でプラス26.8%と増収となりました。営業利益ですが、金属材などの材料コスト増は引き続き負担となりましたが、前年同期比35.6%増益の133.4億円という結果でした。営業利益率は21.5%でした。

セグメント別では、一般産機市場向けは、その中でもFA関連向けが牽引して、過去最高売上を更新し、スマートフォン向けおよびコンシューマ・モバイル向けも一部地域や用途によって強弱が見られたものの、全体としては堅調に推移いたしました。加えて、自動車・モビリティ関連向けも引き続き成長を維持いたしました。受注高は710.6億円、前年同期比36.6%増と好調であります。

売上・営業利益推移 (2025年度 第1四半期 ~ 2026年度 第1四半期)



© 2026 HOROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

4

続きまして、4 ページをご覧ください。四半期ごとの売上、利益の推移を示したグラフです。前期末にてキャパシティを含めた生産体制の強化に取り組んでいるとお伝えしましたが、その成果もあり、売上 620.8 億円は四半期売上としては過去最高となりました。

営業利益に関しては 21.5%と良化したものの、コスト負担増の影響を引き続き受けた結果となっております。

2026年度 第1四半期 連結決算概要

(金額：億円)

	2025年度1Q (2025/6月期)	2026年度1Q (2026/6月期)	増減額 (対前年同期比)	増減比 (対前年同期比)
売上高	489.7	620.8	+131.1	+26.8%
売上原価率	57.6%	58.1%	+0.5	
販売・管理費比率	22.3%	19.9%	-2.4	
営業利益	98.3	133.4	+35.1	+35.6%
営業利益率	20.1%	21.5%	+1.4pt	
税引前利益	102.4	144.7	+42.3	+41.3%
税引前利益率	20.9%	23.3%	+2.4pt	
当期利益	72.3	73.3	+1.0	+1.4%
当期利益率	14.8%	11.8%	-3.0pt	
自己資本比率	89.0%	86.4%		
1株当たり 当期利益	213.58円	224.03円		
			2025年度1Q累計	2026年度1Q累計
			1US\$	144.59円 159.49円
			1€	163.80円 185.39円
			100ウォン	10.34円 10.63円

© 2026 HOROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

5

そして5ページ、決算概要です。第1四半期の売上は先ほどお伝えしたとおり620.8億円、前年同期比プラス26.8%となりました。営業利益は133.4億円で、前年同期比35.6%、営業利益率は21.5%、税引前利益が144.7億円、当期利益が73.3億円となりました。

自己資本比率は86.4%、1株当たり当期利益は224.03円、為替の実績は右下にございます、ドルが159.49円、ユーロが185.39円、ウォンが100ウォン10.63円でした。

2026年度 第1四半期 対前年同期主要増減

売上高

131.1 億円 増加 (489.7億円 → 620.8億円)

一般産機	: + 65億円
自動車・モビリティ関連	: + 28億円
通信インフラ機器	: + 12億円
ヒロセSER	: + 11億円

売上原価率

0.5 pt 悪化 (57.6% → 58.1%)

変動費率	: 40.8% → 43.5%
減価償却費率	: 7.9% → 6.7%
労務費率	: 7.8% → 7.3%

販売・管理費比率

2.4 pt 良化 (22.3% → 19.9%)

109.3億円 → 123.8億円 (+14.6億円)

金融収益・費用

7.2 億円 増加 (+4.0億円 → +11.2億円)

為替差損益: -6.5億円 → +2.5億円

© 2026 HOROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

6

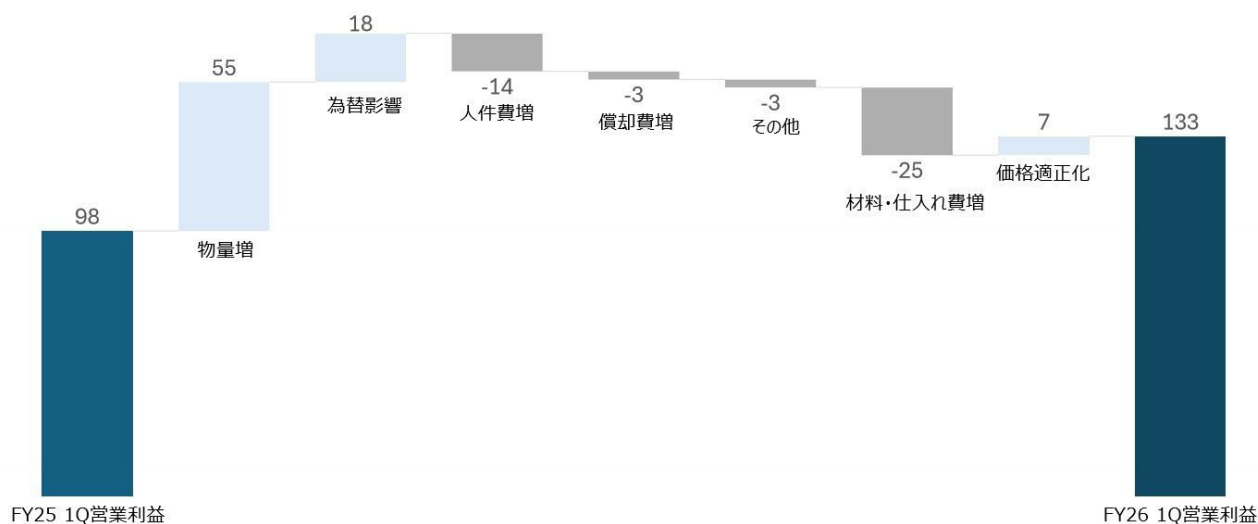
続いて6ページに対前年の主要増減をまとめております。売上高は前年から131.1億円の増加となりました。内訳としては、一般産機向けの売上がプラス65億円、自動車・モビリティ向けがプラス28億円、通信インフラ機器向けがプラス12億円、プローブ関連事業のヒロセSERが11億円という結果でした。

売上原価率は前年の57.6%から58.1%へと0.5pt悪化しております。主に材料費および仕入費用の増加により、変動費率が40.8%から43.5%に上昇しております。減価償却費と労務費の金額はやや上昇しましたが、率としては減価償却費が7.9%から6.7%、労務費は7.8%から7.3%へと下がりました。

販管費は物流費の増加などにより14.6億円増加いたしましたが、売上等の効果もあり、比率としては19.9%と2.4ptの改善となりました。金融収支は、為替差損益としてマイナス6.5億円だったものが、円安の影響でプラス2.5億円となり、合計で7.2億円の増加となっております。

2026年度 営業利益 対前年同期 変動分析

(金額：億円)



© 2026 HOROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

7

続いて7ページ、対前年対比の営業利益の変動分析になります。売上に対しては記載していませんが、対前年同期からの増加131.1億円のうち、為替影響が35.8億円、物量増によるものが95.3億円となりました。

スライドに戻りまして、ウォーターフォールチャートにあります営業利益増35億円のうち、プラス要因として、物量増により55億円、為替影響として18億円の押し上げがありました。一方、マイナス要因として、人件費増で14億円、減価償却費の増加で3億円、材料仕入れ費の増加が25億円、その他3億円の減益影響がありました。

また、昨年度より継続して取り組んでおります材料コスト上昇に対応した価格適正化活動により、7億円の改善効果がございました。価格の適正化については継続して取り組んでまいります。

連結貸借対照表（１）

		科目	2026/3末	2026/6末	増減額	備考	(金額：億円)
資 産	現金及び 現金同等物		873.3	1,103.0	+229.7	当期税前利益 +144 定期預金からの振替 +266 配当支払 △85 設備投資(建物等含む) △47	
	営業債権及び その他の債権		498.7	568.8	+70.1	売上増加	
	棚卸資産		301.9	337.3	+35.4	生産増に伴う在庫確保	
	その他金融資産		1,444.0	1,217.6	-226.4	定期預金減 △266	
	有形固定資産		903.6	902.5	-1.1		
	使用权資産		59.1	64.3	+5.2		
	その他		231.1	199.2	-31.9	未収消費税還付 △36	
	合計		4,311.8	4,392.7	+80.9		
現預金合計			1,370.9	1,334.6	-36.3		

© 2026 HOROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

8

続きまして、8 ページが B/S 資産の部になります。現金のところが増えておりますが、その他金融資産の定期預金減での振替による増加が含まれております。営業債権の増加は売上増加によるものです。棚卸資産は生産増によるものが主要因ですが、計画的なつくり込みによる仕掛品・製品在庫の一時的な増加や一部の原材料在庫の積み上げ確保も含まれております。

連結貸借対照表（２）

(金額：億円)

	科目	2026/3末	2026/6末	増減額	備考
負債	支払債務及び その他の債務	167.5	205.4	+37.9	仕入増による買掛金増 +21
	リース負債	62.2	67.4	+5.2	
	未払法人税	64.7	80.9	+16.2	移転価格による追徴金
	その他	236.5	244.5	+7.9	
	合計	531.0	598.2	+67.2	
純資産	資本金及び 資本剰余金	208.7	209.7	+1.0	
	利益剰余金	3,649.3	3,449.8	-199.5	当期純利益 +73、配当金支払 △85 自己株消却△187
	自己株式	- 477.7	- 289.9	+187.8	自己株消却 +187
	その他	400.5	424.9	+24.4	為替換算調整(円安による) +14
	合計	3,780.8	3,794.5	+13.7	
	負債及び純資産合計	4,311.8	4,392.7	+80.9	

© 2026 HOROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

9

続いて 9 ページは、負債と純資産の部です。支払債務の増加は、仕入増による買掛金の増加によるものです。未払法人税ですが、国内法人税納付で減少する局面ではあるのですが、海外子会社の移転価格による税務調査の結果を受け、約 30 億円を当第 1 四半期決算において計上しております。ただし二重課税排除に向け、法令に基づき関係国間の相互協議制度の活用を検討しております。

設備投資・償却費 推移(連結ベース)

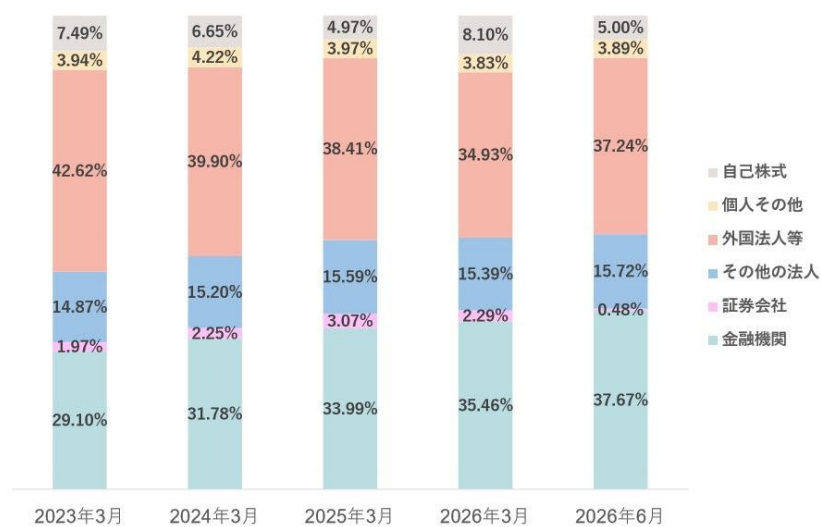


10

続きまして、資料 10 ページをご覧ください。設備投資および減価償却費の推移です。26 年度第 1 四半期の設備投資額は 46 億円、償却は 41 億円でした。成長投資の進展に伴い、減価償却費の予想を期初の 170 億円から 180 億円に引き上げております。

資料に記載はございませんが、第 1 四半期の研究開発費は 33 億円という実績でした。2026 年度年間予想 145 億円に変更はございません。

株式分布推移



© 2026 HIROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

11

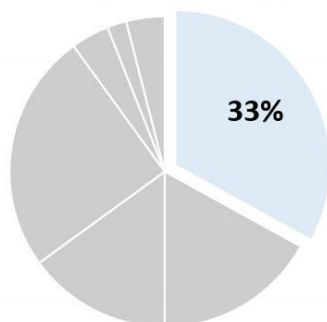
次に 11 ページ、株式分布推移のスライドです。自己株式が 8.1% から 5% に減少しておりますが、これは自己株式の消却によるものです。外国法人と金融機関が増加し、証券会社分が減少いたしました。

分野別売上 一般産機

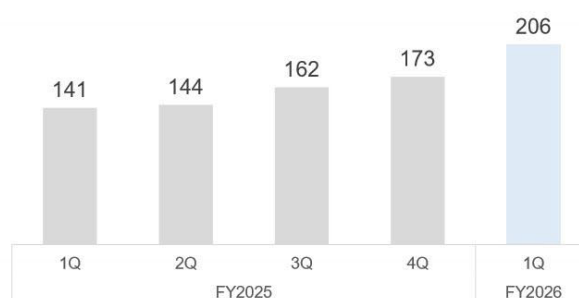
(金額：億円)

	2025年度		2026年度	前年同期比	前四半期比
	1Q	4Q	1Q		
売上高	141	173	206	+46%	+19%

● 2026年度 累計 構成比



● 四半期別売上推移



■ FA関連の成長が牽引し、四半期売上は過去最高だった180億円を大幅に上回った

© 2026 HOROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

12

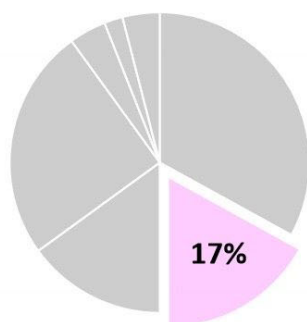
続きまして12ページ、ここから分野別の結果についてご説明いたします。まず一般産機向けの売上推移です。第1四半期の売上高は206億円となりました。前年同期比で46%の大幅な増収となっております。2022年度の第3四半期に180億円の四半期売上を記録しておりますが、それを超えて過去最高となりました。特に日本や中国地域におけるFA・産業機器関連の増加が顕著でありました。

分野別売上 スマートフォン・携帯端末

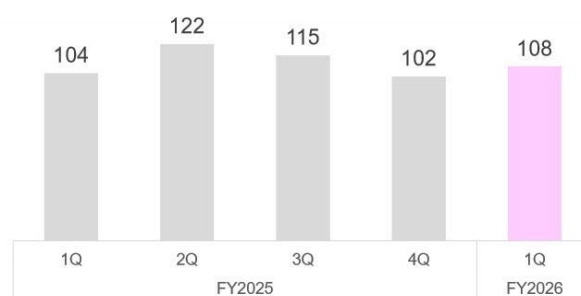
(金額：億円)

	2025年度		2026年度	前年同期比	前四半期比
	1Q	4Q	1Q		
売上高	104	102	108	+4%	+6%

● 2026年度 累計 構成比



● 四半期別売上推移



■ 中国市場向けは低調だったものの、その他市場が堅調に推移し全体では順調なスタートとなった。

© 2026 HOROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

13

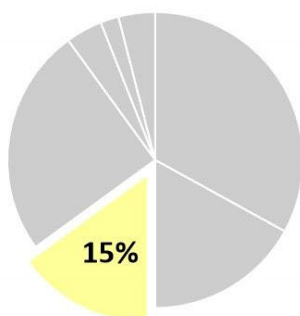
続いて13ページは、スマートフォン・携帯端末向けになります。第1四半期の売上は108億円となりました。前年同期比プラス4%です。中華系は低調だったものの、その他の市場が堅調に推移したことと、あとは為替の影響もあり堅調なスタートになったと言えるかと思っております。

分野別売上 コンシューマ・モバイル機器

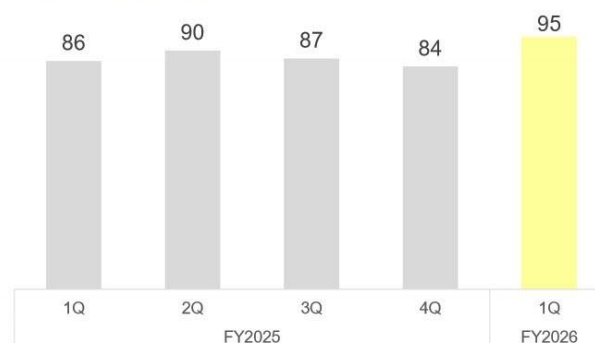
(金額：億円)

	2025年度		2026年度	前年同期比	前四半期比
	1Q	4Q	1Q		
売上高	86	84	95	+10%	+13%

● 2026年度 累計 構成比



● 四半期別売上推移



■ 構成比はまだ大きくないもののエッジAI関連向けの増加や、顧客・アプリケーションの拡大により全体が押し上げられた。

© 2026 HOROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

14

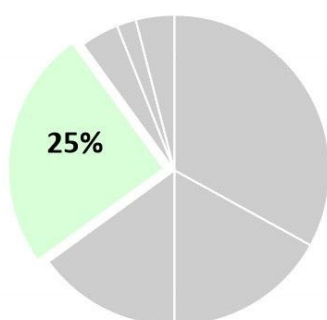
続きまして 14 ページ、コンシューマ・モバイル機器向けになります。第 1 四半期は 95 億円、前年同期比プラス 10%となりました。構成比はまだ大きくないものの、サブセグメントのうちウェアラブルデバイスに属するエッジ AI 関連アプリケーションの増加や、その他に分類されるさまざまなコンシューマ機器では、顧客やアプリケーションの拡大が見られ、全体が押し上げられました。

分野別売上 自動車・モビリティ関連

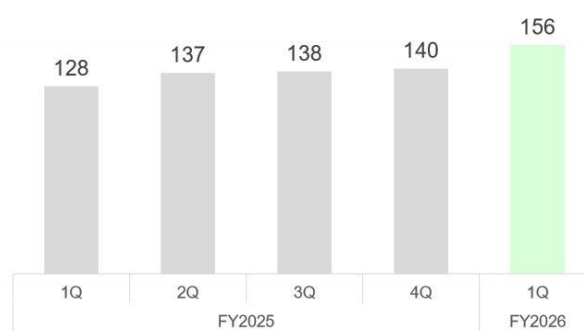
(金額：億円)

	2025年度		2026年度	前年同期比	前四半期比
	1Q	4Q	1Q		
売上高	128	140	156	+22%	+11%

● 2026年度 累計 構成比



● 四半期別売上推移



■ 多様な顧客基盤と製品ラインナップを背景に成長を継続し、四半期売上として初めて150億円台を達成した。

© 2026 HOROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

15

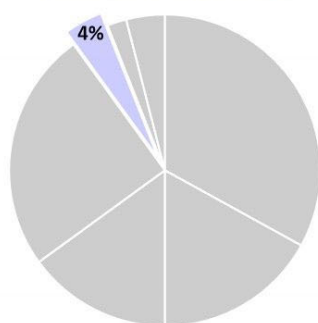
続いて 15 ページ、自動車・モビリティ関連向けです。第 1 四半期は 156 億円、継続成長し続ける中で、四半期の売上として初めて 150 億円台に届きました。前年同期比でプラス 22%の成長という結果です。引き続き多様な顧客基盤と幅広い製品ラインナップにより成長市場をカバーしており、堅調に推移したものと捉えております。

分野別売上 通信インフラ機器

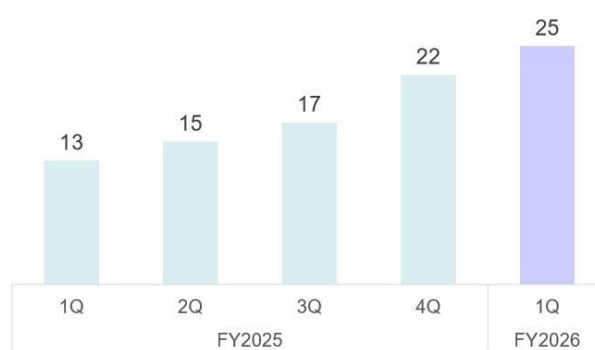
(金額：億円)

	2025年度		2026年度	前年同期比	前四半期比
	1Q	4Q	1Q		
売上高	13	22	25	+92%	+14%

● 2026年度 累計 構成比



● 四半期別売上推移



■ AIサーバー関連向けの比率は概ね横ばいながら、売上規模は着実に拡大

© 2026 HIROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

16

次に 16 ページ、こちらは通信インフラ機器向けのスライドとなっております。

Appendix.
分野別売上推移 概数（四半期ベース）



(金額：億円)

	2025年度				2026年度	2026年度1Q 分野構成比
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	
一般産機	141	144	162	173	206	33%
スマホ・携帯端末	104	122	115	102	108	17%
コンシューマ ・モバイル端末	86	90	87	84	95	15%
自動車 ・モビリティ関連	128	137	138	140	156	25%
通信インフラ機器	13	15	17	22	25	4%
OA 機器	5	5	4	5	5	1%
コネクタ計	478	513	523	526	594	95%
ヒロセSER*					11	2%
その他	12	17	22	21	16	3%
合計	490	530	545	547	621	100%

* 2025年度はその他に含む

© 2026 HOROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

22

今期より事務機器向けは本スライド説明から外しており、Appendix の分野別売上推移に OA 機器として記載しております。事務機器向けは第 1 四半期売上 5 億円という結果でした。

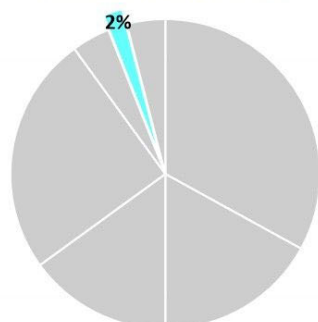
通信インフラ機器のセグメントに戻りますが、第 1 四半期の結果は 25 億円、前年同期比プラス 92%となりました。このうち AI サーバー関連向けの比率としてはおおむね横ばいではありますが、全体の売上規模は着実に成長いたしました。

コネクタ以外「ヒロセSER」

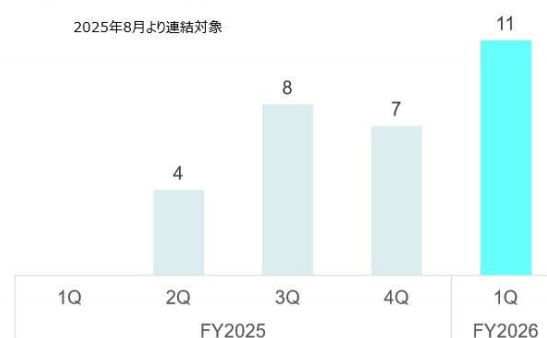
(金額：億円)

	2025年度		2026年度	前年同期比	前四半期比
	1Q	4Q	1Q		
売上高	-	7	11	-	+57%

● 2026年度 累計 構成比



● 四半期別売上推移



■ 今期60億円のターゲットに対し設備投資を進めながら増産を推進しており、立ち上がりは計画通り推移。

© 2025 HOROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

17

17 ページは、今期から四半期報告に含めることにいたしました、プローブ関連事業を手掛ける子会社、ヒロセ SER のスライドとなっております。昨年度 8 月からの連結となっておりますので、前年対比は記載ございませんが、前四半期対比としてはプラス 57% の 11 億円という結果です。構成比は全社売上のわずか 2% であります。今期は 60 億円の目標としており、それに向けて設備投資をしつつ増産に努めております。立ち上がりとしては当社計画どおりの結果となっております。

以上がセグメント別の実績となります。

続きまして、26 年度の業績予想の修正、他については、社長の鎌形よりご説明させていただきます。お願いいたします。

2026年度 業績予想（連結）

一般産機向けビジネスを中心に期初予想を上回る見込みのため2026.5の公表値を修正致します。

(金額/億円)

	2025年度 (2026/3月期) 実績		2026年度 (2027/3月期) 5月予想		2026年度 (2027/3月期) 今回修正予想		第2四半期累計 対前年実績		通期 対前年実績	
	第2四半期 累計	通期	第2四半期 累計	通期	第2四半期 累計	通期	増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	1,020.2	2,112.6	1,150	2,300	1,250	2,500	+229.8	+22.5%	+387.4	+18.3%
売上原価率	57.9%	57.9%	60.0%	60.0%	59.8%	59.8%				
営業利益	204.6	429.9	230.0	460.0	255.0	500.0	+50.4	+24.6%	+70.1	+16.3%
(%)	20.1%	20.4%	20.0%	20.0%	20.4%	20.0%				
税前利益	221.0	466.3	240.0	480.0	275.0	530.0	+54.0	+24.4%	+63.7	+13.7%
(%)	21.7%	22.1%	20.9%	20.9%	22.0%	21.2%				
当期利益	155.2	331.4	170.0	340.0	165.0	350.0	+9.8	+6.3%	+18.6	+5.6%
(%)	15.2%	15.7%	14.8%	14.8%	13.2%	14.0%				
一株当たり 当期利益	—	991.91円	—	1,039.08円	—	1,069.63円				
一株当たり配当	245円	505円	260円	520円	260円	520円				
ROE		8.9%		9.0%		9.4%				
連結配当性向	—	50.9%	—	50.0%	—	48.6%				

【為替レート】	2025年度実績	2026年度予想
1US\$	150.77円	155.00円
1€	174.79円	180.00円
100ウォン	10.59円	10.50円

© 2026 HOROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

18

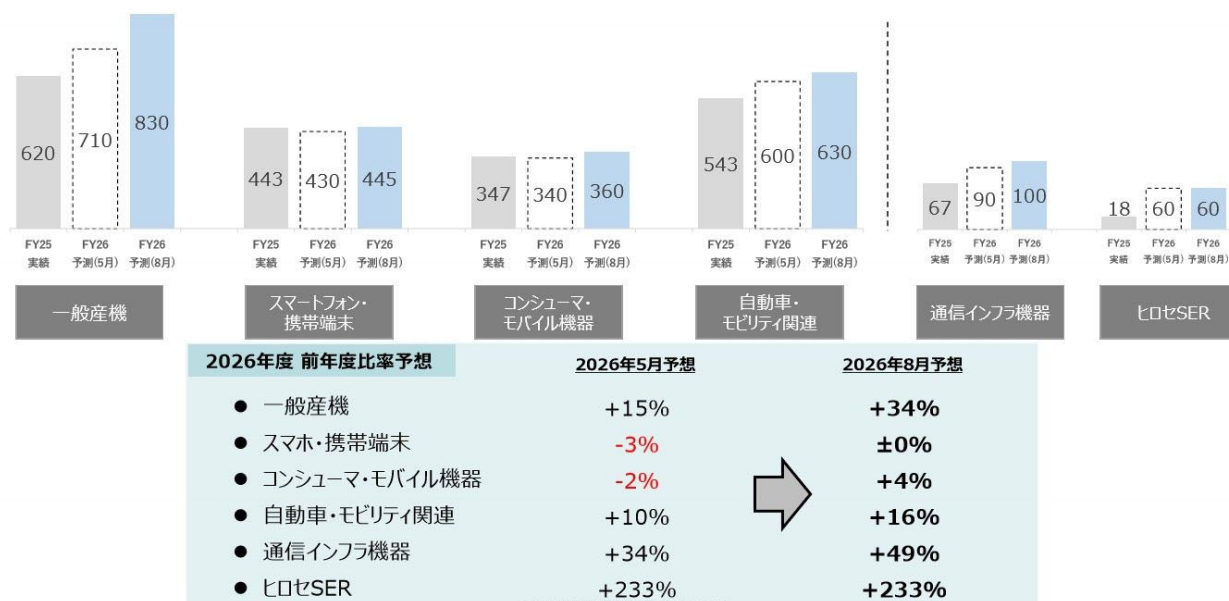
鎌形：社長の鎌形です。いつも皆様には大変お世話になっております。この18ページから、私から説明をさせていただきます。

26年度通期の業績予想でありますけれども、既にご存じのとおり、26年5月に発表した数字を修正させていただきました。新しい修正の値は、ちょうど真ん中の赤枠のところがございます。売上高を2,300億円から2,500億円に上方修正させていただきます。営業利益は460億円から500億円に修正をさせていただきました。これは二つとも過去のピークを上回る値ということでもあります。税前利益は530億円、当期利益は350億円を置いています。

この前提は、右下にございます26年度為替の予想1USドルは155円で見えております。ユーロは180円、100ウォンあたりは10.5円を前提として置いております。

コネクタ分野別・コネクタ以外(ヒロセSER) 年間売上予想 (概数)

(金額/億円)



19

次のページをご覧ください。分野別の年間売上予想の概数でございます。一般産機は5月の段階ではプラス15%とお話をさせていただいておりましたが、足元の受注の好調を踏まえて、プラス34%という形で置き直しております。830億円を予想としております。

スマートフォン・携帯端末およびコンシューマ・モバイルのところは、5月の段階ではマイナスの成長を予想しておりましたが、ここはニューデバイスをはじめとした供給の計画が少し当初のイメージよりも、昨年度よりもプラス目に来ておりますので、それぞれプラスマイナス0%、プラス4%と置いております。

自動車・モビリティは、これは2桁成長を置いておりましたが、それを若干上回る形でアップデートして、プラス16%と見ております。およそ630億円を予想しております。

通信インフラ、ここは既存のお客様から上振れオーダーが来ております。フォーキャストが強めに入ってきて、それを加味しておりまして、プラス49%でアップデートしております。およそ100億円をイメージしています。

ヒロセSERは、これは計画値どおり推移をしておりますので、今のところ問題なく実現できるかなという形です。

株主還元 自己株式の取得

2025年5月発表

2025年度～2028年度の4年間に600億円を上限とした自己株式を取得する方針を決定。

25年度は約200億の自己株取得を実施。

株主還元の充実及び、資本効率の向上を図るとともに、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の一つとして、自己株式の取得を行うものであります。

取得する株式の種類	当社普通株式
取得する株式の総数	700,000株（上限） （発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合 2.14％）
株式の取得価額の総額	15,000,000,000円（上限）
取得する期間	2026年8月10日から2026年11月30日
取得方法	東京証券取引所における市場買付

© 2026 HOROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

20

20 ページをお願いいたします。こちらにも既にご存じかと思いますが、25 年度から 28 年度の 4 年間で 600 億円と発表させていただいた方針に即して、今期 150 億円の自己株式取得を 8 月 10 日から 11 月 30 日までに行う予定でございます。

トピックス：ヒロセコリア「AMC物流センター」新設

自動車向け供給体制の強化

自動車向け製品の需要拡大に対応するため、ヒロセコリアに「AMC物流センター」を新設（2026年9月着工、2027年12月竣工予定）
物流・保管機能の強化により、グローバル供給体制を拡充。

AMC物流センターの役割

1. 自動車向けコネクタの需要拡大への対応
2. 自動搬送の導入により、入出庫作業の効率化
3. 保管能力の向上による安定供給の実現

建屋概要

敷地面積：6,404.7㎡ 1,937坪
建築面積：3,781.8㎡ (1,144坪)
構造：8階建て



<外観イメージ>

市場環境や需要変動に柔軟に対応し、グローバルでの供給体制強化を推進

21

次のページをお願いいたします。21 ページ。今回のトピックは、ヒロセコリアの物流センターでございます。これは車載向けの物流センターでございます。長い間コリアは民生向けの製品供給が割合として高かったのですが、ここ数年、自動車向けの供給が非常にニーズが高まってきておりまして、ここに対応するには今の生産キャパシティ、物流キャパシティを上げる必要があるという判断をしたものでございます。こちらは27年12月の竣工を予定しております。これによりまして、コリア国内およびコリア発のグローバル製品への対応をしていくということでございます。

以上、私からの説明でございます。

山田：スライドに沿ったご説明は以上となります。

免責事項

本資料には、ヒロセ電機の現時点における予測に基づく記述が含まれています。これら将来に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性その他の要因が内在しており、当社における実際の業績と異なる恐れがあります。ご承知おき下さい